

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ(第14回) 議事要旨

日時：平成20年11月21日(金) 18:30～20:20

場所：釧路地方合同庁舎 4階 共用第二会議室

【出席者(敬称略)】

再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー

＜個人(所属)＞

- ・ 清水信彦
- ・ 新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター)

＜団体(出席者)＞

- ・ NPO 法人釧路湿原やちの会(雑賀重二)
- ・ 釧路武佐の森の会(大西英一)
- ・ 釧路市民活動センターわっと(成ヶ澤茂)
- ・ ボランティアネットワーク・チャレンジ隊(佐竹直子)

＜関係市町村(出席者)＞

- ・ 釧路市(環境政策課/菊地義勝)

＜関係行政機関(出席者)＞

- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
(所長/北沢克巳)
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
(自然再生指導官/白藤末人)
- ・ 北海道釧路支庁(地域政策部環境生活課/矢久保六玄)

再生普及小委員会(所属)

＜個人(所属)＞

- ・ 高橋忠一(北海道教育大学釧路校)

再生普及行動計画ワーキンググループ事務局

- ・ 環境省北海道地方環境事務所 国立公園・保全整備課(川渕義昭)
- ・ 釧路湿原自然保護官事務所(露木歩美)
- ・ 財団法人北海道環境財団(久保田学、内田しのぶ)

【議事概要】

〈事務局〉第14回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「行動計画WG」と表記)を開催する。(資料確認後、新庄座長による進行。)

議事1 「ワンダグリンド・プロジェクト2008」中間報告

〈事務局〉今年度の活動状況、実施・進捗状況を報告した(資料1-1、資料1-2、資料1-3に沿って説明)。また前回普及小委員会以降参加登録された新規応募活動についてパワーポイントで紹介した。9月に実施した知名度調査アンケートの結果を報告(資料1-

4に沿って説明)。このアンケート自体はサンプル数が少なく、統計的な評価はできない。今年度から新たに着手した、フィールドワークショップ、ワンダグリンダ推進サポーター制度の創設、情報発信の拡充について状況を報告（資料1-5及びパワーポイントにて説明）。フィールドワークショップについては、当初のねらいを達成できた部分もあるが、反省点もあり、次回12月7日の幌呂・久著呂に活かしていく。ワンダグリンダ推進サポーターについては、資料作成後も増え、本日時点で公共施設等23件の応募があった。情報発信については、大西英一先生のFM番組（ゆうゆう釧路湿原塾）やメールニュースでの取組紹介等を新たに開始している。

〈座長〉フィールドワークショップに参加した感想はどうか。

〈委員〉大変おもしろく、ためになった。

〈委員〉その場所に詳しい人から案内いただけることは普段なく、もっと多くの人を誘えるとよい。また行きたい。

〈座長〉まだ1回しか実施していないが、2回目以降への提案があればお願いしたい。

〈委員〉冬の赤沼に参加したが、普段会議室とはちがった皆さんの顔が見られてよかった。会議室ではなく、何かしながら話すのがよい。

〈座長〉夏のときには塘路湖に暮らす土佐さんお話しいただいた。そこに暮らす人の話を聞いてみるのがねらいだった。

〈委員〉今後もそれができるとよい。

〈事務局〉第2回の内容は、農地と湿原が接する幌呂で、湿原の中に歩いて入って、土砂の堆積状況や植物の遷移を見してみる。午後は久著呂で釧路開発建設部が人工ケルミを設置して再生事業に取り組む現場に行き、河川の直線化による影響を見ってみるというものである。

〈座長〉行動計画WGは自然再生協議会の活動であり、今行っている再生事業を見て、取り組んでいる人の説明を聞いて、周りを見てこようという趣旨である。

〈座長〉推進サポーターについて。いわば「メッセンジャー」だが、ご意見はどうか。

〈委員〉具体的にどのくらいの協力をしていただいているのか。

〈事務局〉まだ登録を開始したところまでだが、チラシの配布等でご協力いただく予定。中には展示などの協力をしてくれるところもある。

〈座長〉宣伝の窓口である。

〈委員〉私たちそれぞれがつきあう（交友）範囲は限られており、例えば接点のない建設会社などが発信してくれることは、広がる手段につながると思われる。

〈事務局〉今年度の建設会社の参加（2社）は、ワンダグリンダ応募者である太平洋総合コンサルタント社の紹介により実現したものである。まさにそのような効果があった例といえる。

〈座長〉食堂、古本屋、温水プールなど、畑違いのところに出て行けており、とてもよい。

〈委員〉ホテルや旅館にもおけるとよい。

〈委員〉大学や幼稚園等には広告塔を求めるのではないと思うがどうか。ここには挙げられていないが、熱心にやっている学校もある。

〈座長〉標茶高校などは大変よくやってくれている。

- 〈委員〉 アンケート結果について、どれもこれも数字が落ちているが、やり方が悪いのか、関心が落ちているのか。湿原を軽視する声もあるし、観察会でも市民より外から来る人のほうが熱心だったりする。大学で学ぶことも重要だが、釧路外からきた生徒は帰ってしまう。(環境教育について) 地元の小中高でも熱心にやっているところもあるのだが。どうしてこのような結果になったのか、ということを考えることは重要かもしれない。
- 〈委員〉 市民に伝えるにはメディアの力が大きいですが、掲載されたりされなかったりと波がある。そうしたことが意外に影響しているのでは。FM くしろは例えばどんな人が聞いているのか？
- 〈委員〉 近頃はネットで配信するので、全国にリスナーがおり、メールがくる。宅配の運転手など、ドライバーも聞いてくれている。メディアは大事。少しずつでも出せるとよい。
- 〈委員〉 高校や大学では、生徒たちの興味の対象が人間になり、他のことがあまり目に入らなくなり不安定な時期である。自然の話をして、関心を持つのは少数派。
- 〈委員〉 釧路でも「地域検定」がいよいよ2月にはじまるが、今、私も関わっている。釧路商工会議所が中心となって行うが、履歴書に掲載できるようなものを目指したい。企業がそれを評価するようになってほしい。
- 〈委員〉 以前、新庄さんをお願いして学生を連れて真冬に野宿をしていた。こうした体験は、肩の力が抜けてとても良かった。
- 〈委員〉 ラムサール会議に参加した子どもたちに話を聞いたが、その子たちは会議に参加するなどのいろいろな体験しているが、意外と地元で湿原の話をする場がないという。同級生も学校の先生も「へえー、行ってきたんだ」というくらい感覚。発表する機会があってもそれは大人の会議であり、呼ばれても「こども」として迎えられただけである。わたしたち(子どもたち)も対等に、湿原のことを話し合う場がほしい、という意見を持っていたのが印象的だった。
- 〈座長〉 メディアの力、子ども(同土)の活動の場を作ることなどの重要な指摘があった。佐竹委員の(北海道新聞での)記事は「人」を取り上げていたが、人に焦点を当てていくことは重要。そうしないと我々の活動は「アキバ系」になってしまう。今回のアンケートでも、湿原に出かける人自体はポイントが上がっているが、再生事業は知られていない。再生事業は「人」との関わりであり、今後の参考にしてほしい。

議事2 「ワンダグリンダ・プロジェクト2009」募集(案)について

- 〈事務局〉 募集概要を説明(資料2-1に沿って説明)。今年度のチラシは現在残り50枚という状況で、次年度募集時には印刷枚数を増やして広報を強化したい。(資料2-2に沿って説明) チラシのウラ面には、新たにワンダグリンダ推進サポーター参加者やその募集、昨年度参加者の感想なども掲載している。
- 〈座長〉 次年度の募集についてはいかがか？
- 〈委員〉 個人で活動している人もいるので、個人も対象に応募できる内容にしてはどうか。
- 〈座長〉 「あなたも参加しませんか？」といった呼びかけができるとうい、ということか。
- 〈事務局〉 オモテ面の最下段には個人も対象になることを書いているが、もう少し目立つように

したい。

〈委員〉伝えたいことはたくさんあるが、これだけ文字が多すぎると読まれない。「ワンダグリンダって何？」ということを目立つように書いた方がいい。

〈座長〉「ワンダグリンダ」は造語であり、それをわかるように書く必要がある。

〈委員〉チラシのオモテ面にはたくさん書かず、引きつけることに徹した方がいい。

〈委員〉「プロジェクト」という言葉には構える人もいるし、知らない人から見て距離感があるのでは。

〈座長〉ワンダグリンダの言われを説明したい。

〈委員〉“ワンダグリンダ”は「Wonder (ful～すばらしい)」、「(日本一の湿原で) No.1」、「Green (自然) だ!」の組み合わせでつくったものである。

〈委員〉最初のキャッチで「活動の募集をします」はやめて、別途「いっしょにやりませんか」の旨のコピーを入れた方がいい。

〈座長〉「例えばこんな活動～」ではなく、「いっしょにこんな活動してみませんか？」というトーンにしては。オモテ面は説明せずに体言止めにして呼びかけに徹することとしたい。

議事3 今後のスケジュールについて

〈事務局〉(資料3及びパワーポイントにて説明) 来年度で5カ年の終期を迎える現行の行動計画の見直しを行うこととなる。ここ数年は年2回の会議開催で進めてきたが、来年は行動計画見直し作業により回数が増えるかもしれないが、協力をよろしくお願ひしたい。

〈座長〉行動計画の見直しは、自然再生協議会自体が5年目を迎えて点検評価を行うことになるので、おそらく年度後半は、それと平行して行うことになる。この事業は協議会の中でも注目されているので、引き続き協力をよろしくおねがひしたい。それでは進行を事務局にお返しする。

〈事務局〉そのほか情報提供などあれば。

〈委員〉11月22日のイベントについて説明。

〈事務局〉これで第14回行動計画WGを終了させていただく。

以上